

10月 さつき園だより

H22/10/22 さつき幼稚園 理事長 萩谷雅一

運動会

秋の運動会は、園児たちの頑張りと保護者及びご家族の皆様の絶大なるご協力によりまして、盛会の内に終了することができ、ありがとうございました。

前日までの大雨により、開催日を一日順延させていただきましたが、当日は好天に恵まれ、グラウンドも良好な状態でよかったです。毎年、主催者として天気には悩まされますが、今回は前日までの大雨で、天候がある程度回復してもグラウンドの状態が悪いことが予測されたため、早めに順延を決めました。「お弁当作りの都合があるので順延のときは早めに決めてください」とのプレッシャーをかなりのお母さんから事前に受けていたことも多少影響したかもしれません（笑）。

当園のホームページに掲載されている運動会の写真をみながら改めて全競技を振り返ってみますと本当に楽しい運動会だったな、そして子どもたちは実によく頑張っていたなと改めて感じます。さつきの運動会では、親子で楽しい一日を過ごすことは勿論ですが、日頃の教育の成果を皆様に見ていただくことも大事な狙いになっています。サーキット2010ではマット、跳び箱、鉄棒、平均台などに全園児が挑戦しましたが、これはまさに日々の保育や毎週の体操の時間に行っていることそのものです。また年長さんが演じた組み立てはかなり本格的なものです。一番下で支える子は痛いし重いし、一番上の子は恐ろしいしそれぞれ大変です。しかし、日頃から「頑張ること」「やるときはやること」を教えていて、まさにそのことを実行してくれました。担任の先生はうれしくて涙ぐんでいましたね。体操の深川先生と担任の先生にも拍手です。

遊ぶこと

園児にとっては、遊ぶことが何よりも大切です。子どもにとって「遊ぶ」ことは、大人にとって「仕事をする」と同じなのです。おもしろそうと思う→対等な仲間→目標の共有→力を合わせる→工夫する→時間を忘れてエネルギーを傾注する→成功を共有する→明日もやろうとの気になる。この繰り返し「根拠のない自信」となり、生きるための源泉になるのは大人も子どもも同じです。

建築家で環境デザイナーの仙田満さんは「遊ぶことによって開発される能力」は、
1、身体性＝歩く、運動能力 2、社会性＝仲良く遊ぶ、仲直りをするという人間関係は大学や大学院ではなく、幼稚園の砂場で遊びながら学ぶ 3、感性＝感受性や心の豊かさ 4、創造性＝新しく物を作っていく力 5、道徳性や倫理観＝ルールを守らなければおもしろくないし、遊びは続かない といわれています。まさに

そのとおりだと思います。私たちが心がけることは、遊びの環境を整え、誘導し、アドバイスをしていくことです。このプロセスを通じて、是非子どもたちに、前向きに生きていく力を身につけさせていきたいと思います。

運動能力

今年の6月に（株）エルステップス社の協力を得て、年中児・年長児男女別で運動能力の計測（体力測定）を行いました。計測した項目は、1身長・2体重・

3、20m走・4立幅跳び・5テニスボール投げです。さて、同じく計測した約50倍の数の園児数の母集団の中で、さつきの園児たちの運動能力はどうだったでしょうか？（勿論個人的なばらつきはあり、あくまで「さつき」の園児と母集団の平均値との比較ですが・・・）比較しやすいように、ここでは偏差値で示してみます。偏差値にはあまり良いイメージを持たない方も多いと思いますが、偏差値50が丁度平均で、平均値を上回るほど数値が高くなる仕組みです。結果は次のとおりでした。

	身長	体重	20m走	立幅跳び	ボール投げ
年中男子	50	50	47	54	50
年中女子	49	49	48	49	48
年長男子	48	46	53	53	52
年長女子	49	48	54	57	54

この集計結果から読み取れることは次のようなことでしょうか（やや独善的かもしれませんが）。即ち、さつきの園児は他の幼稚園の園児に比べると身長・体重は、年中児はほぼ平均、年長児はやや小ぶり。運動能力では年中男子は20m走は平均を下回るが幅跳びは平均を上回るとばらつきがあり、女子は項目全て平均を下回る。年長児は男女とも全項目について平均をかなり上回っている。

この結果から、さつきの園児は年中から年長への1年間で運動能力がぐっと高まっているといえると思います。確かに年中後半から1年後のドッジボール大会に向けての練習を開始するとか、毎週の体操の時間をしっかり行っているとか、日々の保育の中で元気に遊ばせているとか、遠足では山道を50分も歩かせているとかの諸々の結果だとしたら大変嬉しいことです。ドッジボール大会も3年連続で好成績を挙げており、今年もみんなでがんばりたいと思います。

作品展

さて、次の大きな行事は11月14日の作品展です。作品展はまさに子どもたちの感性と創造性が発揮される場です。今、各教室ではこどもたちが絵や工作に熱心に取り組んでいます。また保育が終わった後は先生たちが、職員室でいろいろなアイデアを出し合っています。実は作品展は先生たちの感性と創造性も試される気の抜けない行事なのです。毎年ホールで展開される共同制作は作品展の呼び物の一つですが、今年のテーマはなんのでしょうか、皆様ご期待ください。